

中期計画

(2019～2024)

聖和短期大学

責任者名: 聖和短期大学長

各学校での承認

年月日

2024年 3月 5日

年 月 日

年 月 日

会議体名

教授会

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <ul style="list-style-type: none">・「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成を目指し、キリスト教主義に基づく全人教育を通して、他者、特に幼い者を愛し仕える使命感を持った保育者を育成する。・幼稚園教諭・保育士となる際に必要な基礎的・基盤的な学習ができるよう、教育課程、教授内容を検証し、改善を図る。・保育の現場に立つ使命感を構築できるよう、実習や授業など有意義な機会を提供するとともに、保育者としての資質・能力を向上させるために、実習先との協力体制の充実を図る。・教育課程の基本となる幼児期に育みたい資質・能力の内容について、学生が体得できるように教授する。また、最新の子どもに関する調査結果や、変化する保育環境の動向を見据え、時代にあった幼稚園教諭、保育士、保育教諭の養成に努める。・学習成果の検証の実施と見直しを図る。・ICTの活用の充実を図るとともに、ICTを活用できる人材の育成を強化する。・経済的に困窮する学生や地方から来た学生が安心して学業に専念できるように、奨学金制度の充実を図る。・多様な学生(配慮を必要とする学生、経済的に困窮する学生など)に対するきめ細かな支援を行う。	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none">・建学の精神、スクールモットーを理解し、他者、特に社会的弱者に奉仕しようとする使命感を持った学生の育成が行われている。・教育課程の学習を通して保育の知識ならびに技能と子ども理解が身につく、保育の現場に就職する人数の割合を維持している。・保育者になるという意欲や、そのために豊かな人間性を培おうとする態度、意識を持った学生の育成と、それを達成するためのキャリア支援が行われている。・本学卒業生が保育分野において貢献し、社会的評価がさらに高まっている。・学習成果の測定と評価が着実に進められ、教育の質の保証に向けた取り組みがなされている。・保育でICTを適切に用いることのできる学生の育成が行われている。・保育学の研究などに触れ、さらに知識や理解を深めるために一定数の学生が学びの継続(編入・進学等)を志望している。・奨学金を必要とする学生に、適切に資金が供給されている。・学生生活全般に対して、きめ細やかな支援が行われている。・保育の現場で役立つ新たな資格等を取得できるようになっている。
<p>2. 志願者獲得の方針</p> <ul style="list-style-type: none">・入学者選抜試験等、「学力の3要素」(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を多面的・総合的に評価するものへと改善する。・関西学院短期大学の魅力を伝えるための広報の戦略を常に検討する。・中高生向けの広報を充実させる。・オープンキャンパスの時期や内容を検討する。・多様な進路を選択できるように、編入制度の充実と周知を図る。(大学・高等部との接続)・高校との連携を充実させる(高校への出張授業等)。・幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園、児童福祉施設等に加え、保育団体や地方自治体との連携を深め、保育を学びたい受験生の開拓に努める。	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none">・関西学院短期大学の名称が広く認知されている。・関西学院短期大学に名称変更・共学化することにより、保育を学びたい受験生が確保され、受験者数が増加している。・高校生が多面的評価をしてもらえると感じ、志願(選択)しやすい入試形態を用意している。・SNSやHPが中高生に見やすいものとなり、アクセス数が増加している。・オープンキャンパスの参加者が増加し、本学受験へとつながっている。・高校での模擬授業や進路ガイダンス等で高校生と本学教職員が出会う機会が確保され、本学での学びを希望する受験生が増加している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者がコンスタントにある重点校(協力校)、保育コースや保育類系のある高校や家庭科・保育科目等の担当教諭との連携が深まっている。 ・幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園、児童福祉施設ならびに保育団体や地方自治体と協定を締結し、保育者養成に関しての連携がさらに深まっている。
<p>3. 研究、保育現場などとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心、広い視野を持ち、専門分野に加え、周辺分野に関する研究を深化させる。 ・保護者、卒業生、保育現場などへの情報発信を充実させ、本学との繋がりを強化する。 ・幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質・能力の向上を目指した研修等を充実させる。 ・保育団体や地方自治体などとの連携を深め、ブランド力をさらに高める。 	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究成果の発表などが注目される。 ・研究助成金などの外部資金と寄付金の獲得が増加している。 ・現職教育の実施機関として広く認知され、受講者数が安定している。 ・保育に関する連携協定などの締結先が増加し、保育分野におけるブランド力が高まっている。
<p>4. 法令などへの対応、認証評価による改善課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令などの改訂に対して、情報収集に努める。 ・2021年度に受審した機関別認証評価による向上・充実のための課題に取り組む。 ・内部質保証の取り組みを充実させる。 ・改革総合支援事業などに示された内容への取り組みを進める。 	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令などを準拠し、その内容に即した教育研究活動を行なっている。 ・2021年度認証評価「自己点検・評価報告書」に記載した課題の改善計画を遂行している。 ・2021年度認証評価の結果を受けて、向上・充実のための課題について対応し、さらに教育の質が向上している。 ・第4期認証評価受審に向けて準備を開始している。 ・改革総合支援事業への対応が進んでいる。
<p>5. 短期大学の長期的ビジョンの検討</p> <p>今後の短期大学の在り方について、W.G.を組織して検討する。</p>	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・短大将来検討WGの提言を反映しつつ、保育者を育てる養成機関の特色を生かした本学の具体的な取り組みをすすめている。 ・「関西学院短期大学」としてのブランド力向上を図るために、学内で委員会を設置し、将来について検討している。
<p>6. 中期的な課題</p> <p><フェーズ2(2022~2024)></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志願者の獲得 2. 名称変更・男女共学化などの広報活動の強化 3. 教育の質保証 4. 学生支援体制の充実 5. 保育団体・実習施設との協力体制の構築 6. 大学の社会的活動の充実 	

▼継続 or 完了 or 廃止 を選択してください。	【重点施策】 (中期的な課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期 総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順 位の高いものから5つ程度)	【中期総合経営計 画 実施計画】とし て取り組むものに ○
継続	① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
継続	② 広報戦略の充実・入学者数の確保	
継続	③ 授業内容の充実	
継続	④ 学生支援体制の推進	
継続	⑤ 質の高い保育者の輩出	
継続	⑥ 再教育システムの充実	

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- | | | |
|----------------------|---------------------|---------------------|
| ②-1 広報施策の拡大 | ②-2 出願高校の増加 | ②-3 オープンキャンパス来場者の増加 |
| ②-4 志願者数の増加 | ②-5 入学定員の確保 | ③-1 授業の到達目標の達成度 |
| ③-2 DPに定める資質 能力の獲得状況 | ③-3 免許資格取得率 | ③-4 学習成果の獲得状況 |
| ③-5 学習成果の実践度 | ③-6 教員の研究成果の発表・発信状況 | ④-1 学生満足度 |
| ⑤-1 就職率 | ⑤-2 就職先からの評価 | ⑥-1 短大が行う研修への参加状況 |
| ⑥-2 研修参加者の満足度 | | |

目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2024年3月末時点)

<1. 2023 年度の中期計画の状況、課題>

・2024年4月実施の「関西学院短期大学」への名称変更および男女共学化については、文部科学省への届出を完了し、2023年4月初より広報を開始した。高校訪問や進学ガイダンス等での告知に加えて、SNS、主要地域でのデジタルサイネージ広告の展開により認知度上昇を加速した結果、オープンキャンパス参加者数は前年比約20%増加したものの、志願者数については前年並みとなっており、今後は志願者獲得に繋がる取組・施策の実施が課題となっている。

・「保育士等のキャリアアップ研修」の参加者は昨年度比約+10%が見込まれ、引き続き、内容の見直しを図り、収入確保に寄与できる施策として取り組んでいく。

・保育者養成に関しては、自治体や保育団体との教育連携事業の一環として、西宮市長講演や保育フェア等を実施し、保育現場の現状やニーズ、行政の子ども子育て支援への関わりについて学びを深める機会となった。また、新たな資格として「認定絵本土」および「ピアヘルパー」を取得できる教育課程を2024年度から開始できるよう準備を完了した。

<2. 学校評価の取組みにより明らかになった課題>

・広報戦略の充実・入学者数の確保が、引き続き大きな課題となっている。オープンキャンパスの来場者数や出願高校数は増加に転じており、校名変更・共学化の周知を中心とした広報施策の効果が一部に見えてきている。今後は継続して広報戦略を加速して、これらを入学者数の確保に繋げることが喫緊の課題となっている。

・授業内容の充実、学生支援体制の推進、質の高い保育者の輩出および再教育システムの充実の各項目においては、概ね目標指標をクリアし、高水準を維持できている。今後は、教育の質の更なる改善、改革総合支援事業等への対応、ブランド力向上のための将来検討の推進により、維持・改善を図る必要がある。

・教員による広報活動をはじめとした業務負担が増加傾向にあり、教員の研究成果の発表・発信状況や研究助成金などの外部資金の獲得については、減少しつつあるため、やや進捗が芳しくない状況が続いている。研究活動に注力できる体制等の整備も課題となっている。

<3. 上記1, 2を踏まえた 2024 年度以降に向けた展望>

・2024年度は「関西学院短期大学」としての1年目となり、引き続き、名称および男女共学化の広報に注力する。2023年度オープンキャンパス来場者数や出願高校数は改善傾向を示しており、これを志願者増加・学生数確保に繋げていくためにも、保育者養成機関としての特色・魅力を発信できる施策を展開していく。

・保育現職者への学びの機会提供として、引き続き「保育士等キャリアアップ研修」を実施し、より保育現場に即した内容や社会から求められているものをとり入れる。また、講師陣の充実を図り、開催地域の拡大等の検討を進める。

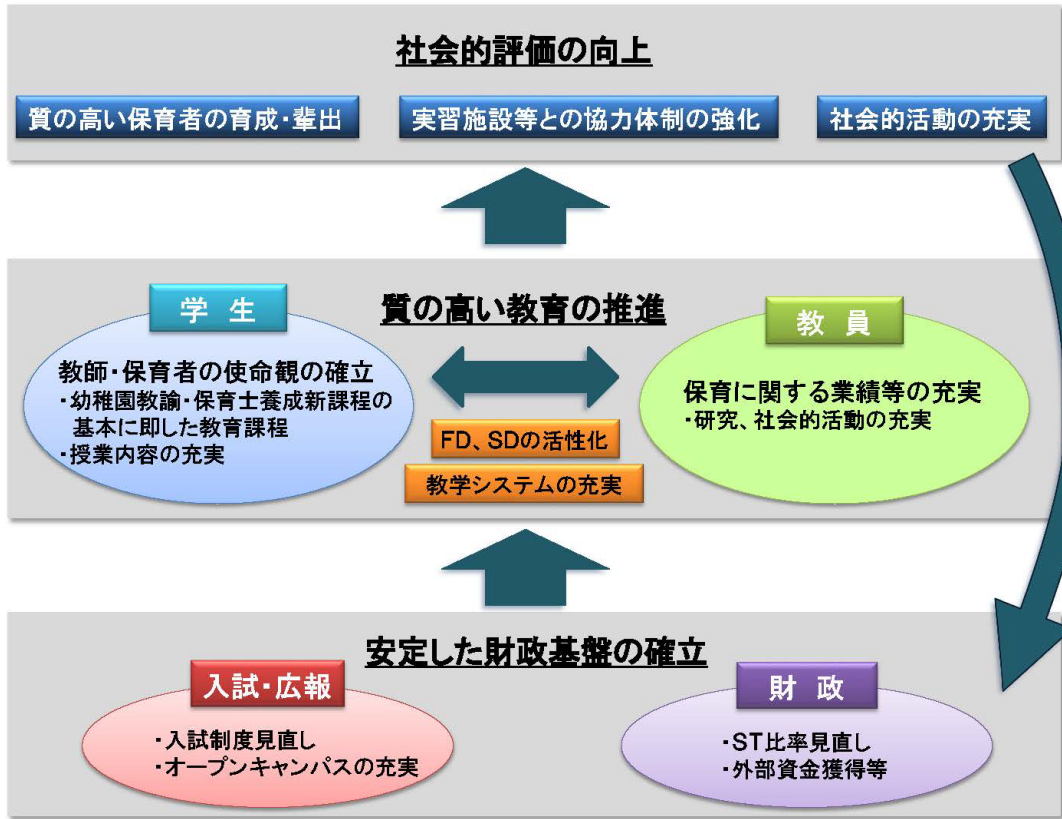
・西宮市および神戸市や関連する保育団体と連携協定を締結しており、その連携事業内容の充実を図る。他の自治体や保育団体との連携強化を進め、地域での保育ブランドをより強固なものにしていく。

・新資格取得の教育課程開設(認定絵本土、ピアヘルパー)による保育者養成の充実を図っていくことで、保育ブランドを高めていく。

・長期的には、「関西学院短期大学」としてのブランド力向上を図るため、さらなる特色・魅力の創出に向けて、学内で将来検討委員会を設置し、幼稚園・保育所等と連携した授業の充実や修年年限の検討を開始する。

取り組みの全体像(イメージ)

2020年8月時点



以上